

防除情報(病害虫情報 号外 第1号)

令和4年4月7日
神奈川県農業技術センター

令和4年度イネ縞葉枯病の発生予想と防除について

県内10地点の水田でヒメビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、平均保毒虫率は2.7%(図1)であり、平年比「やや低」でした。

また、県内15地点の水田でヒメビウンカの越冬世代虫密度を調査した結果、平均密度は31.0頭/9m²(図1)であり、平年比「並」でした。

ヒメビウンカのRSV保毒虫率は平年よりも低いものの、越冬世代密度が平年並であり、3月以降の高い気温推移から今後の増加も予想され、本年のイネ縞葉枯病発生量は「平年並」を予想しています。

【防除】

水稻生育初期にRSVに感染すると被害が大きくなります。このため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を必ず施用してください。

また、田植前および作期を通して水田周辺の除草を徹底し、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期には農業技術センターの病害虫情報等を参考に、適期に本田防除を行ってください。

【防除薬剤例】

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱
エバーゴルフオルテ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫 7日前まで	3回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a

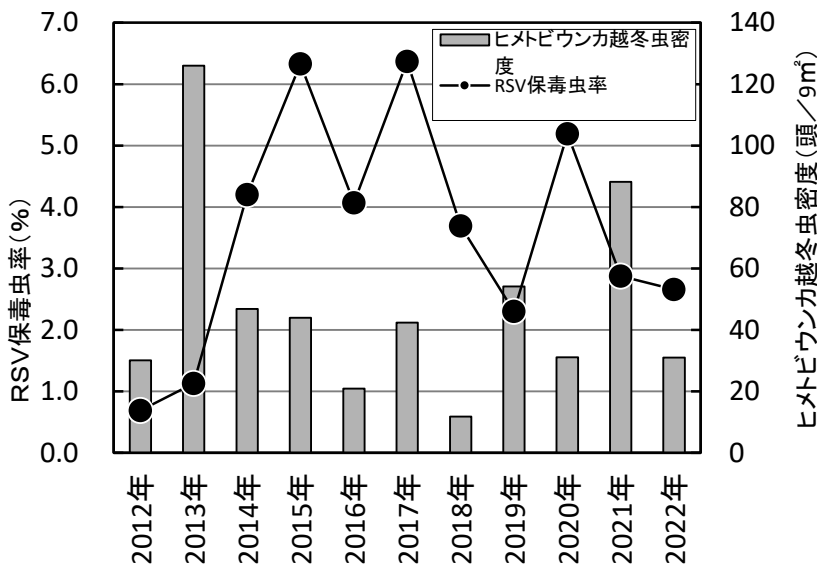


図1 ヒメビウンカのRSV保毒虫率及び越冬虫密度の経年変化

病害虫防除部
TEL0463-58-0333
ホームページ
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f4500002/>
○農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。